こども会をつくり育成しよう

大湊こども会のあゆみ

こども会は、こどもたちの生活をより豊かなものにし、未来を育てるものです。

昭和四十二年一月、当時の浜田前浜小学校長が、どうも近頃の子どもには規律がなく、責任感に乏しい気がする。

こんなことでは将来社会人として世に出た場合、この現実のきびしい社会を立派に渡ってゆけるだろうか考えてみればまことに寒心にたえない気がするがどうだろう、という話が当時P・T・Aの役員であった私たちにあり、私たちも先生の気持ちを良く考えてみました。

すると子どものことにかまっていられないほど忙がしい日々の生活、子どもの消費をねらったマスコミ攻勢、交通戦争の中の子ども達、このような中で子ども達は笑いを忘れ、何となく無気力に育てられているような気がするが、はたしてこれでよいのだろうかということになり、それではこの現状を打開するにはどうするか、学校教育の場は専門家である先生に、家庭教育の場は家庭の人たちで、学校、家庭以外の生活、子どもの願いを正しく理解し、子どもの遊びの場、を正しく指導していく社会教育の場として、各部落ごとに、子ども会を組織してはということで、市教育委員会、補導センターなどの指導に、よって、各部落で子ども会結成準備会を開き、

①子ども会とはどういうものか、

②子ども会はなぜ必要か、

③子ども会会員の構成など、

こどもと親を中心に、真険に話し合いをしました。始めのうちは学校教育中心の考え方が強く、子ども会を作って子どもの遊びを指導すれば、子どもは遊ぶことが好きだから、次第に勉強がおろそかになりはしないか、塾へ行く時間がなくなりはしないかなどの意見がありましたが、子ども会は決してそのようなものではなく子ども の校外生活をより安全に、正しい方向へ導こうとするのが子ども会のねらいであって、各部落でばらばらに生活している子ども達が楽しい遊びや、行事を、いっしょに行なうことによって、協調性、自主性を養い、子ども達の生活を豊かにするものであることの理解を得ることができ、また、「ゆがんだ愛」という教育映画を通して、現在の子ども達のおかれている、社会環境について理解を得ることに努めました。

現在では子ども達が学習活動、日常活動、スポーツ活動、奉仕活動などについて自分で考え、計画し、規律とルールを守りながら、体力を高め、家庭、郷土を愛する精神を養いながら喜々として、子ども会活動に参加している姿は、子ども達本来の清らかにして、美くしいものであります。

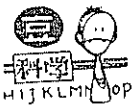
わが子の健全な成長を願わない親はいないと思いますが、人の子も、わが子も、同じ日本の子どもたちです。

地域社会の一人一人が、子ども達の健全な成長を願い立派な社会人として世に立てるよう、お互に子ども会の育成強化に精進いたしたいと思います。

次は、久礼田仲よし会へバトンタッチします。

大湊子ども育成会会長　浜田重彦

あっと驚く!! 建築資材



最近、いたる所に赤く塗られた鉄骨建築が目に付きます。これは工期が比較的早く、高い、木材に比べて安くできるなどの利点があるからです。この鉄骨建築も年々材料や工法が進んできています。最初は軽量型鋼がほとんどでしたが、最近ではH型鋼やさらにステンコレーム、Hフレームなどボールトで締め付けたらできあがりになる加工された資材が使われだしました。

これはボールトの材質がよくなり、少々の馬鹿力でも締め切ることができない良いボールトができだしたからです。更にボールトもできるだけ少くして溶接が多く使われています。普通のH型鋼はロールで押延べて作られています、最近は三枚の鉄板を連続溶接した軽量H鋼が出廻っています。これは、軽くて強いから鋼材の使用量がぐんと少くなり、釘も普通のものはコンクリートや鉄にはたたなかったものが、今ではこれらに平気でたつ立派な釘が使われています。コンクリートもセメントと石と砂が相手でしたが、土を骨材とするセメントが出はじめています。まだまだ驚くようなことが早く多く出てくるようになることでしょう。

鉄空（ロケット）

た。その結果、地域全体に、子ども会結成のムードが高まり、二月中旬から子ども会結成にとりかかり、三月上旬に全部落の子ども会結成をみることができました。